

平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果と分析

○ 教科学力

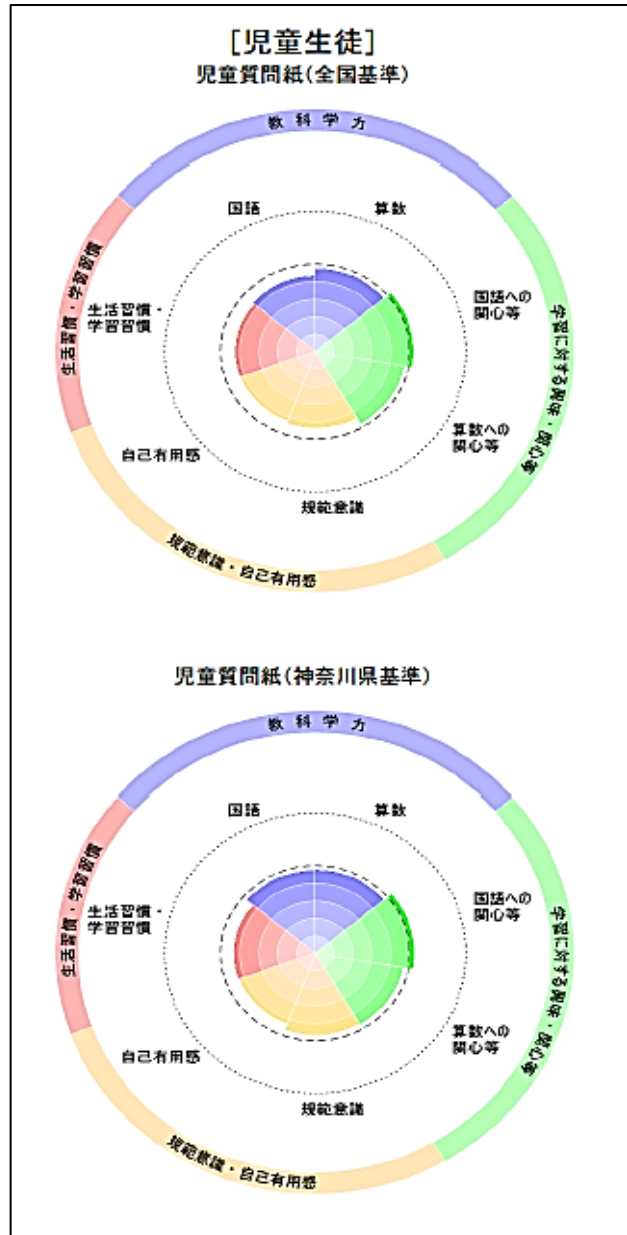
国語、算数の学力は、全国、神奈川県ほぼ平均値となっています。ただし国語においては、漢字の理解について顕著な課題が見られました。

「対象」という漢字を問う問題では、正答率が32.1%（全国平均41.9%）でした。これは「対象」と同音異義語である「対照」や「対称」などとの意味の違いを捉えることができず、文脈の中での使い分けができていなかったと考えられます。また「限らず」（正答率47.6%、全国平均69.4%）や「関心」（正答率32.1%、全国平均35.6%）など他の漢字についても同様な傾向が見られました。指導に当たっては、漢字の形と音や意味が関係していることや熟語の成り立ちなどの、既存の知識を手掛かりにしたり、自分が書くようとしている言葉の意味と、使おうとしている漢字の意味とを照らしあわせたりするなど、様々な方法で熟語を想起できるような学習を積み重ねていきたいと思えます。

算数については、おおむね全国平均と同じでしたが、数や式の意味を説明する問題について、低い正答率がみられました。例えば、「わり算においては、被除数

と除数の両方に同数をかけても商は変わらない（ $400 \div 25 = 1600 \div 100$ ）」ことを扱う問題について、計算式の穴埋めは正答率が66.7%（全国74.9%）であるのに対し、そのことを記述で説明する問題になると正答率31%（全国正答率31.1%）と低くなる傾向が見られました。

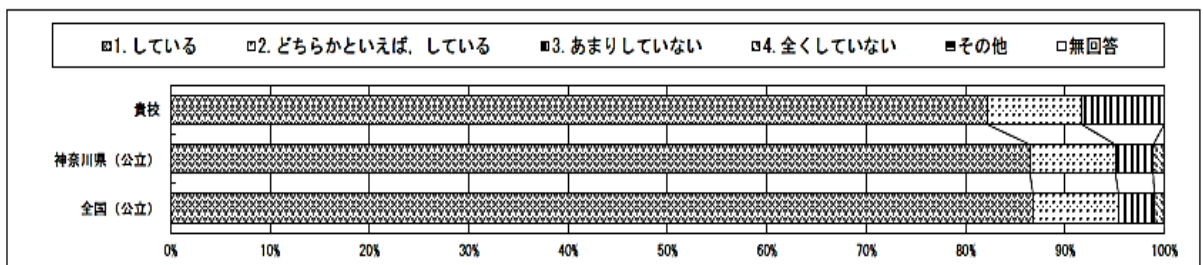
四則演算の計算方法を身に付けることは算数の基礎的な技能であり、本校でも低学年を中心に計算の手順や正確に解くことを丁寧に指導しています。基礎・基本の定着に時間をかける一方で、四則演算の仕組みを説明したり、授業の中で発展的に活用したりする機会が少ないことが要因として考えられます。式にある数や記号が問題の中のどの値を示しているかを確認めたり、ある式を別の式で組み立てなおす活動をしたりと、児童の理解度や意欲に応じて、四則演算を多面的にとらえる学習を充実させていきたいと思えます。



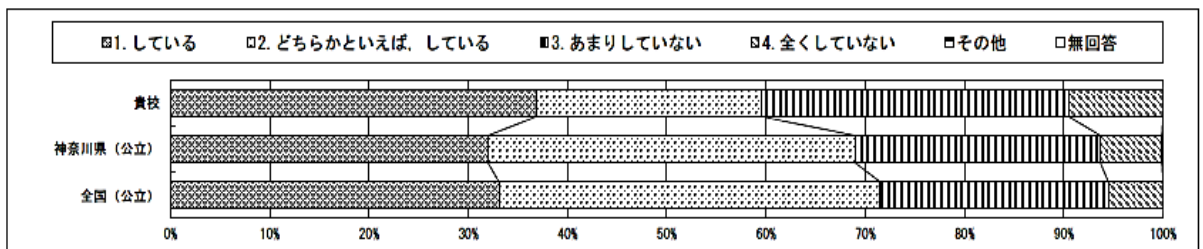
○ 生活習慣・学習習慣

生活習慣や学習習慣については、やや全国平均、県平均を下回っています。しかし本校の中での割合をみると、80%以上の児童が「毎日朝食を食べている。」「就寝や起床時刻が同じぐらいである。」と回答しているとともに、およそ60%が「家で計画的に学習をしている。」と回答しています。全国平均以下ではあるものの、大半の児童が規則正しい生活を送り、計画的に家庭学習に取り組んでいる様子が見えます。規則正しい生活や学習習慣は学力と相関関係がみられます。家庭と協力をしながら現在の状態を今後も維持していきたいと思えます。

質問番号	質問事項										
(1)	朝食を毎日食べていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	82.1	9.5	8.3	0.0						0.0	0.0
神奈川県(公立)	86.5	8.6	3.8	1.1						0.0	0.0
全国(公立)	86.7	8.6	3.6	1.0						0.0	0.0

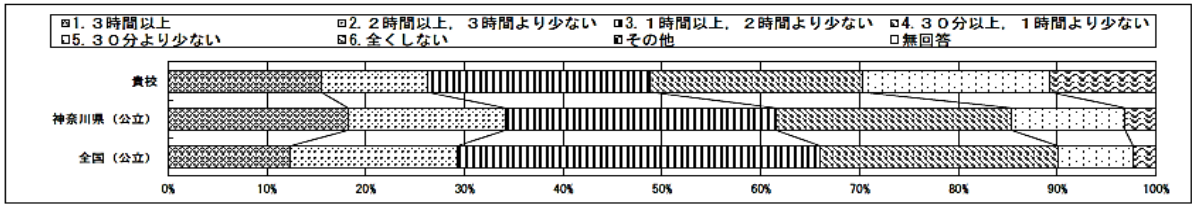


質問番号	質問事項										
(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	36.9	22.6	31.0	9.5						0.0	0.0
神奈川県(公立)	32.0	37.0	24.7	6.2						0.1	0.0
全国(公立)	33.1	38.4	23.0	5.5						0.0	0.0

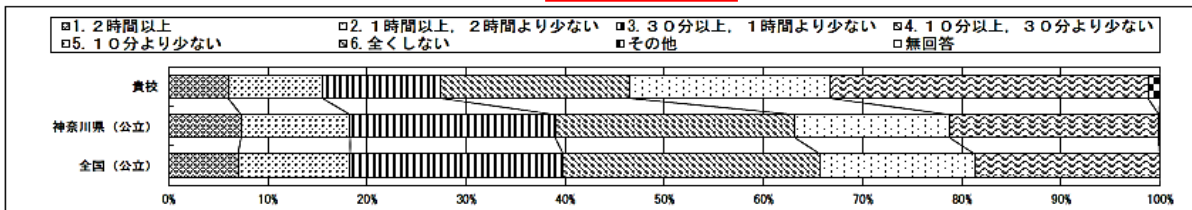


一方で、「一日の家庭学習の時間が30分未満」と回答した児童が29.7%（全国では9.6%）いることや、「一日の読書時間が10分未満」と回答した児童が52.3%（全国では34.3%）と、家庭で学習をしたり読書に親しんだりすることが少ない児童が、全国と比べてやや多い傾向がみられました。学習時間や読書量の低下が懸念されると同時に、近年、スマートフォンや携帯ゲーム機の使用時間の増加が注目されています。スマートフォンやテレビゲームの使用時間と学力については、相関関係があることが指摘されており、使用時間が長くなるほど、学力層の下位の割合が高くなることから、横浜市の学力・学習状況調査でも指摘されています。家庭での過ごし方について保護者の方と協力をしながら、自主学習の習慣化やスマートフォン等の適切な利用を児童に啓発していく必要があると考えます。

質問番号	質問事項										
(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	15.5	10.7	22.6	21.4	19.0	10.7				0.0	0.0
神奈川県（公立）	18.2	15.9	27.4	23.8	11.5	3.1				0.0	0.0
全国（公立）	12.4	16.9	36.8	24.1	7.6	2.3				0.0	0.0



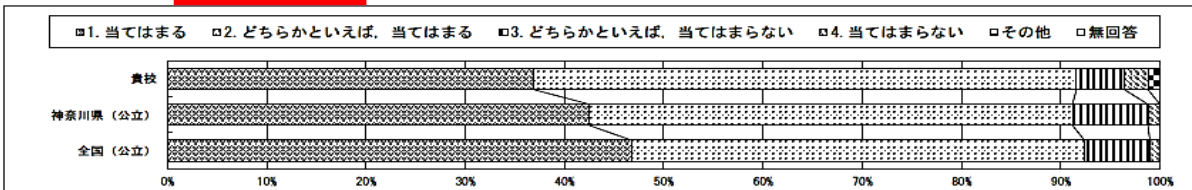
質問番号	質問事項										
(19)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	6.0	9.5	11.9	19.0	20.2	32.1				1.2	0.0
神奈川県（公立）	7.3	11.0	20.7	24.2	15.6	21.1				0.0	0.1
全国（公立）	7.0	11.3	21.5	25.9	15.6	18.7				0.0	0.0



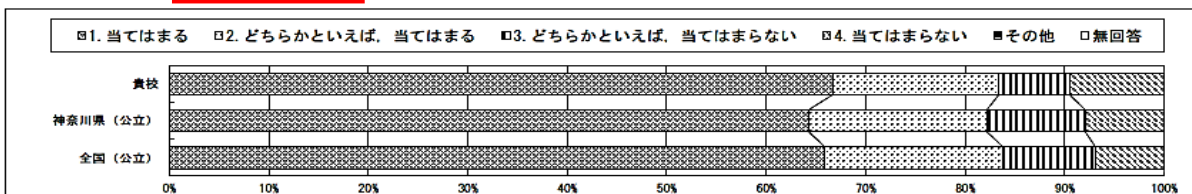
○ 規範意識・自己有用感

規範意識・自己有用感についても、やや全国平均、県平均を下回る傾向がみられました。しかし割合としては、「学校の決まりを守っている。」と回答した児童が 91.7%（全国 92.3%）、「将来の夢や目標がある。」と回答した児童が 83.4%（全国 83.8%）と、大半の児童が高い規範意識、自己有用感をもっている様子がうかがえます。

質問番号	質問事項										
(13)	学校のきまりを守っていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	36.9	54.8	4.8	2.4						1.2	0.0
神奈川県（公立）	42.5	48.7	7.6	1.2						0.0	0.0
全国（公立）	46.7	45.6	6.6	1.0						0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(8)	将来の夢や目標を持っていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	66.7	16.7	7.1	9.5						0.0	0.0
神奈川県（公立）	64.2	17.9	9.9	7.9						0.0	0.0
全国（公立）	65.9	17.9	9.3	6.9						0.0	0.0



規範意識については、「上寺尾小スタンダード」を軸とした学習面、生活面における日々の指導の意味を前向きにとらえ、秩序ある環境の中で安心して学習に取り組めることの良さを実感している児童が多いことを表していると考えます。また、自己有用感については、年間を通して行っているたてわり活動や委員会活動をはじめ、学校生活の中で児童同士が互いに交流する機会を多く設定することで、教師や友人から自分を認められる場面が増え、そうした成功体験が児童の自己有用感の高まりにつながっていると考えます。

適度な規範意識は落ち着いた学校の風土をつくり、学習に対して集中できる環境を整えます。また、自己有用感の高まりは将来への希望や学習意欲の向上と深い関係があります。一方で、規範意識の乱れは個々の中に嫉妬や欺瞞を生み、集団の中では不安や焦燥が広がり学習への集中力が下がることや、自己有用感の低下が無気力や怠惰につながり、学習意欲の低下をまねくことがあります。引き続き、授業や学校生活の中で、安心して学習に臨める風土づくりと人との関係づくりやコミュニケーションを図る場面設定を、積極的に実施し、規範意識の醸成と自己有用感の高まりを促していきたいと思えます。